

【協議事項等の説明】

1 研修会の企画・運営方法のあり方について（案）

（１）方向性

- ・ 現在行われている研修会（公益３）は大きく分けると、本会（部）企画、職域部会企画、委員会企画になるが、部企画と職域部会企画の研修会を、研修委員会（仮称）を設置して総合的に企画・運営を行うようにする。
- ・ 例：研修会開催は月１回（年１０回）とし、最新テーマを取り入れたり、職域に係る内容は、順に取り入れたりする。
- ・ 職域ごとの横つながりは、研修会の後半に時間を設け職域ごとの交流時間を設ける。

（２）利点

- ・ 効果的な運営につながる企画を行うことで、研修開催回数の適正化、予算の縮小、研修開催の同月重複を防ぐことが期待できる。
- ・ 研修会内に職域ごとの交流時間を設けることで、参加者の負担の軽減が期待できる。
- ・ 少数会員の職域部会への負担の軽減が期待できる。
- ・ 事務局への負担軽減が期待できる。

（３）課題・問題点

- ・ 研修会開催数が減ることに伴う事業収入（参加費）の減少が心配される。
- ・ 研修委員会（仮称）の構成員を誰にするか？
例：職域の理事１名を委員とする。理事とは別の委員を各職域から推薦してもらう。
- ・ 専門性の高い研修を担当する各委員会の研修はどうか？
例：この新研修委員会で対応してもらう。現行通りそれぞれの委員会で対応する。

2 栄養ケア・ステーションの運営方法について（案）

（１）運営方法

- ・ 栄養ケア・ステーションに関する依頼などの問合せは事務局で対応しているが、この一切の対応業務を会員で対応する
- ・ 栄養ケア・ステーションの受付・対応を行う日を、週２日（午前中）とする。（会員による非常勤対応）
- ・ 栄養ケア・ステーションへの問合せは、すべてメールで行うこととする。（電話問合せ対応の廃止）
- ・ 会員による対応業務は、栄養ケア・ステーションへの依頼処理とその派遣会員の調整業務とし、派遣会員への謝金支払い等の業務は従来通り、事務局が対応する。
- ・ １１月中に関係機関等への案内を行い、１２月から運用したい。

（２）課題・問題点

- ・ 非常勤的に対応できる会員の確保・教育

【10月理事会事前調査回答一覧】

1 研修会の企画・運営方法のあり方について

(1) 理事・部長・職域部会長等として思う意見

(近藤)

研修会開催は必要なことだと捉えておりますが、企画段階で本務や家庭に支障が出ることもあります。委員会として行うことも良いとは思いますが、委員会に所属することでまた委員会所属の方が多くの時間を費やすこととなることを危惧します。(すでに多くの委員会が、本務以外のところでご活躍のことと存じます。) そうなってしまうのであれば、各部会の持ち回りで良いのでは？と考えております。栄養士としての本務が出来てこそその栄養士会業務だと思います。

(木原)

賛成です。研修委員会(仮)が立ち上がることで、医療部会の場合は、委員の人数を減らす事が可能と思われます。そうする事で経費の削減、会員の負担軽減も繋がると思います。

委員会は別ですか？委員会の在り方を再度周知した方が良いのでは？

(河合)

1つの方法かとも思う。示された案となった場合、学校健康教育部会の場合は助成金(県給食会)がどうなるか心配している。同じ職域部会の理事同志だからこそ、公務出張の折に打ち合わせができた。今の案だと研修会担当になった場合、他部会の担当者と打ち合わせが必然的に増えることが予想される。これ以上、本務である日常の業務内において、研修会運営に時間を割くことは難しいと個人的には感じる。

ただ、他部会との横の結びつきが強くなるのはよい(この部分の連携をもっととりたいと思っている)。職域ごとの交流の時間とあるが、理解が悪くイメージが湧いていない。講師への質問時間は必要であるが、学校健康教育部会は交流の時間の確保の優先順位はそこまでは高くないかもしれない。今回の提案項目とは外れるが、研修会参加費未納者への督促を理事が担うことや、研修会にかかる費用の理事立替(平日に事務局に出向いて精算するシステムが一般的?) もいずれば見直していく必要が出てくる時期がくるのではなかと個人的には考える。理事の負担を減らしていかないと、部会内での理事の担い手がさらに減ること(会員減)を懸念している。

(佐宗)

現状を考えるとその方法も良いと思う。

この案になった場合、順に行っていく職域に関する内容は、職域に特化した内容でもよいのか。その部分はこれまでのように、職域の理事で運営していくのか。職域の研修以外は他部会の理事と打合せをしながら行っていくのか。横のつながりが強くなることは大賛成だが、打合せの時間を十分にとることは難しいのではないかと心配している。今でも出張の日を活用したり、メールでやりとりしたりと、かなりの時間を使って打合せや事前準備、事務処理等を行っている。同職域ゆえに取れる時間だと思う。

最新テーマを取り入れるのはよいと思うが、職域に関する内容を行う場合、特化した内容になると、ほぼその職域の会員の参加になるのではないかと。研修会の後半での交流時間とすることができるとかなど心配である。

現在、本部会は給食会から助成金をいただいている。本部会が計画する研修を、地区や職域を超えて広い範囲でお知らせして参加できるようにする。という条件も満たすことで最大限の助成金をいただく手続きをしている。助成金なしでの研修会計画は厳しい。本部会だけではなく総合的に企画となった場合、どうなるのか心配である。

(天野)

公衆衛生部会については、会員数も少なく、研修会の企画をしても出席者が少なく、収支からすると今年度は単独で行うとしても、来年度からは他の部会と一緒に開催しないと無理だと感じています。職域として、愛知県・名古屋市・市町村の行政栄養士が集まる機会や情報交換の場は必要だと思っているので、今回の案に盛り込んでいただいた職域ごとの交流時間があればいいかもしれません。企画するときに、それぞれの職域が意見を盛り込めるような企画・運営ができればいいと思います。

(薦木)

職域において多少の専門性はあるものの、栄養士・管理栄養士というカテゴリーのその基本的な学びは大部分が共通していると思います。また、職域部会を全面に出すことで、参加のしやすさに影響する事も経験してきました。反面、職域における専門性は、さらに多様化しており、研修会のテーマの選定や参加者の確保に困難を感じたことも事実です。研修会を全体会、分科会とすることで、少数派に必要な研修会（勉強会）が開催できる余地が残ることを希望します。

研修委員会は各職域・委員会から1〜2名と偏りのない選出が望ましいと思います。

(深谷)

研修開催回数の適正化、予算の縮小、研修開催の同月重複を防ぐことのメリットは賛成できるが年間10回（月に1回）では少ないとの意見もありそう。職域ごとにホスト（メイン担当）を入れ替えて実施するイメージですか？合理化された新しいやり方ではあるが医療や福祉などの会員数が多いところが結局回数をこなすことにもなりかねない。事務局への負担軽減が必要なのでまとめた実施は良いと思います。研修委員会（仮称）の構成員を誰にするか？は大変そう。結局担当する理事や別の委員さんの負担増にはつながります。良いアイデアは今すぐには思いつかないが運営の工夫は必要。専門性の高い研修を担当する各委員会の研修は希望される参加者がいれば管理栄養士・栄養士の質の向上につながる期待ができる。

(畠山)

回数調整、予算縮小、同月開催予防ができることは効率的・効果的なため、今後の運営を検討していく上では提案形式での開催が望ましい。今後の管理栄養士・栄養士の在り方として、職域部会を超えた活動をしていくことが求められる。そのような機会となる仕掛けがあると良い。医療部会員数は多いため、内容等への配慮があると公平感に繋がるか。

(眞野)

公衆衛生部会は会員数が少なく、研修会の参加者も毎年20名前後と限られているため、予算面での制約が大きく、企画・運営には工夫を重ねているのが現状です。これまで単独開催を続けてまいりましたが、今後は継続が難しくなる可能性もあると感じています。また、研修内容が他部会と重複することもあり、県栄養士会全体で研修テーマや開催時期を調整することで、より効率的かつ効果的な運営が可能になるのではないかと考えます。さらに、役員の任期が2年で一斉に交代するため、引継ぎが十分に行えないことも課題の一つです。経験やノウハウが継承されにくく、部会単独での安定した企画・運営には限界があると感じています。今後は、他部会との連携や、県全体での研修体系の見直しを含め、持続可能な運営体制の構築が必要だと感じます。

(渡辺)

部会の全員が望む内容や予算内の料金で運営するために、本来業務の片手間で色々手を尽くしていただき、ありがとうございます。人の数だけ意見が出るであろうし、かなり期待される内容と思っても申込が少ないのは、なぜか。単純に需要がないとは言いきれないので、情報や技術を他の方法で手に入れることができるならば、今までの回数を提供しなくてもよいのか？聞いてみたいところである。

(望月)

職域部会の垣根を超えて研修会を開催する流れに賛同いたします。会員の研修会参加状況等を見てみると、地活会員に該当する働き方をしている方でも医療部会・福祉部会等に在籍されている状況が特に20～40代の会員に見受けられるように感じています。そのため、職域部会ごとの開催よりも本会・委員会として様々なテーマを扱うスタイルはニーズに合っているかもしれません。そのうえで、研修会実行までの流れとして、2点気になりましたので挙げさせていただきます。①各職域部会の運営委員で検討したものを、研修会委員会で審議してもらうのか？0→1段階から委員会の構成メンバーで検討・決定するのか？②毎月、委員会メンバーが研修会を担当するとすると、作業・時間の負担は大丈夫だろうか？気になった背景・理由としては、職域部会の運営委員の活動としては大幅な負担軽減になりますが、その分、研修委員会・事務局の負担が大きくなり過ぎないように配慮したいと考えたためです。

(加藤)

研修会の企画を一元化し、研修委員会（仮称）で総合的に運営する方向性に賛成します。会員の受講機会の均等化、ならびに部会・事務局双方の負担軽減につながると考えます。また、研修会後に職域ごとの交流時間を設ける点は、会員同士の横のつながりを生み出し、有意義だと思います。年間を通じたテーマカレンダーを示し、職域や委員会が持ち回りで主担当を担う方式が望ましいと考えます。

(田中)

課題・問題点については、今年度より研修参加費が値上がりしたことで参加者の減少が懸念されます。研修会のオンライン開催の場合は、オンデマンド対応など当日に止むを得ず欠席した場合でも参加費が無駄にならないような配慮をすることでもう少し参加者の増加につながるのではないかと思います。新たな委員会を設置した場合、本務のある皆様にとってさらに負担が増すのではないかという不安があります。

(澤口)

企画する事は当然の課題である。十分な集客を見込み、人気のある企画を立てる事も重要であるが、赤字リスクとのバランスを熟慮しなくてはならない。

(吉田)

近年の生産人口や会員数の減少及び事務局体制の人員不足・研修会運営委員の負担軽減を鑑みれば、公益3事業の統廃合に賛同する。研修会の参加率は全会員の10%位であることから、会全体の事業規模から鑑みれば、特段、影響は少ないように考える。しかしながら、研修会の統合によって、職域それぞれの「専門性」や「業務への直結性」を求める会員の満足度が低下するリスクもある。特に医療職域は、他職域と比較しても、「最新エビデンス」「診療報酬との連動」「臨床研究との接続」といったアカデミック性や専門深化を求める傾向もあり、実際に他の医療系学会には所属するが栄養士会には未介入の者の割合が増えている。一方で、現役リタイヤ会員などでは、従来のお楽しみの調理実習や健康（食品）講話的なセミナーを望む会員層も無視できない。いずれの会員にとっても、“常に短し、たすきに長し”にならないよう、研修会企画に十分な工夫が必要であると考えます。また、統括する理事なり、委員長なりの負担が大きい事も懸念される。

(平岩)

運営の効率化（特に研修のフォーマット化）や、担当者の負担軽減という点で、研修委員会（仮称）で総合的に企画・運営を行うことは賛成です。一方で、以下の点が課題と感じます。

「委員の負担」

各研修ごとに実行委員は主・副担当で最低2名体制、月1回（年10回）の研修実施となると、10名の委員で1人2回/年の担当となります。研修の運営という面では、今よりも負担が増えることもあるのではな

いか。研修の運営よりも、企画や準備の負担が大きいと感じるため、必要な（有益な）研修であれば、同じ内容を同日や別日で複数回実施するのが良いのではないか。

「研修の専門性について」

委員会の構成委員の専門性に偏らないよう、考慮が必要ではないか。研修案は理事からのヒヤリングで抽出しながらも、全ての研修を委員会で企画・運営とせず、職域部会へお任せするものがあるのも良いのではないか。

「交流の機会という面」

研修の中というよりは、交流の図れる（しやすい）対面での研修も企画・実施する必要があると感じる。

「職域部会の役割やあり方」

現在「職域部会＝研修実施の枠組み」というイメージですが、研修を委員会へ取りまとめた場合、職域部会の役割やあり方はどうなるのか。

1 研修会の企画・運営方法のあり方について

(2) 一人の会員としての意見

(近藤)

会員としての意見は、毎月何かしらの研修会があり、非常に活発であると感じております。様々なテーマから選択ができ、友人からも好評ではあります。

(木原)

研修委員会（仮）のメンバーを選挙するのはとても難しいと思いますし、現委員をされている方々を断るのも気が引けると思いますが、変革をしないといけないと今後の運営に支障が出て来るでしょうから・・・色々とお察し致します。

- ・以前より研修会をもう少し整理して欲しいと思っていましたのでとても良いと思います。研修会は日本栄養士会を始め、他県栄養士会、各学会、各企業などが積極的に開催しているので、県の栄養士会ならではの研修会を開催できれば会員も興味を示すと思います。
- ・他の研修会の情報をホームページでお知らせするのも魅力に繋がるのでは？
- ・栄養士会に入会しているメリットは研修会だけでなく、保険、情報、連携が強みなので、もっと表に出してアピールした方が良いと思います。
- ・相談窓口があると会員も増えるのでは？昨今色々なトラブルや悩みを抱えている方々が多いと思います。保険までは行かなくても相談できる（話を聞いてくれる窓口）があれば、一つの救いにはなるのではないのでしょうか？運用が難しいかもしれませんが・・・
- ・栄養ケア・ステーションの中に委員会があり、災害・食育・在宅・スポーツとするとスッキリすると思います。これも難しいと思いますが・・・
- ・地区の栄養士会との連携も必要を感じます。

(河合)

魅力的な内容の研修会であれば、どんな形であっても参加すると思う

(佐宗)

他部会の会員の方と連携がとれるのは良いことですし、魅力的な企画があれば参加すると思う。

(天野)

個人としては、栄養士会の会費も決して安いものではなく（新規が入りにくいのはここもあるかと思いますが）、また、研修ごとの参加費も高くなってしまったので、参加しやすい場所や内容が大切になるように思います。集約することで参加しやすくなるなら歓迎です。医療や福祉と一緒に研修会については共通の内容であれば、合同でも問題ないと思います。

(葛木)

研修会内容が多岐にわたり、参加の決定を決める要因として、職域部会の開催というのは大きいです。その壁をなくすことは、自分に必要な研修会をバイヤスをかけずに選定できるきっかけとなり、本当に必要な研修会の受講につながると考えます。ただ、ニッチなテーマでの研修会の開催が少なくなることで、少数派のニーズをどう拾いあげていくのが課題になると思います。

(深谷)

世代ごとに参加しやすい研修の開催を今回の変更を機会に実施したほうが良い。例えば「通算経験年数ごと」＊10年目未満、30年目以上？？など。シニア世代向けの研修を設定してもよさそう。会員減させないようにするとよさそう。自分であればまだ経験が浅い人向けの研修は避ける。話が合わないかもしれないし・・・

(畠山)

会を魅力に感じるものの一つに研修があるため、内容次第では魅力が低減する可能性がある。

他県の著名な先生でなくとも、愛知県内で活躍されている方のお話も聞きたい。同窓会的に、養成校の名物先生による講義もあっても良いかも。

(渡辺)

会に参加することでの交流を楽しみにしていた時代とは異なるのか、オンラインの希望が多いので、技術の向上が狙いの方が多いのかとも思われる。しかし、会員の獲得に向けて「働き始めたいという若手や中途採用の機会に恵まれた方への情報提供、スキルアップ」は確保していく必要があると思うので、回数の設定は、吟味しないといけない。現在の事務局の負担もかなり大きいので、総合的に考えると研修会の回数の大幅削減はやむを得ないと思っております。

(望月)

現状、興味のある研修会でも、日程の都合で参加できないことが多いので、ハイブリッドまたは後日録画受講が標準になれば受講しやすいと感じます。また新たに研修委員会が立ち上がるとなると、より特化して研修会が強化される印象からその点の期待値が高くなるように思います。

(加藤)

職域に関係するテーマが計画的に組み込まれることで、参加しやすく、より実務に生かせる研修になると感じます。また、交流時間の設定により、職域を越えた情報共有の機会が得られる点に魅力を感じます。オンラインでも参加できる形を継続していただけると、勤務の都合で移動が難しい会員にも有益と思います。

(田中)

研修会は自分に興味があるテーマであれば積極的に参加すると思いますが、それでも参加費に見合っていると感じるのと日程の都合が合わないと思ってしまう。参加費はもっと気軽に参加してもよいと思えるこれまでの料金だとよいのではないかと思いますし、オンライン開催の場合は開催日に都合が悪くてもその後自分の都合で視聴できるようなシステムであればより気軽に参加しようと思うのではないかと考えます。

(澤口)

会からの補填なく参加費のみの企画では、人気ある外部からの講師への依頼は難しくなる。個人では接触する機会の持てない講師の方と、オンラインだけではなく対面でもお話しできるような個性ある研修会を期待したい。

(吉田)

研修会企画内容については、職能団体なので、実務直結・即戦力になる内容が望まれていると考える。会員の研修会参加奨励については、自由な時間をプライベートに充てたいと考える人が増加しており、昔は「参加しないといけない」という空気があったが、近年はそうした“同調圧力”が薄れ、自主性に任される傾向が強く、職場等においても参加呼びかけがしにくい。よって、今以上にSNSの活用などの広報の方法について再考する必要がある。

(平岩)

職域によってではなく「それぞれの興味、関心」で参加する研修を選択されていると感じます。いかに興味を持っていただくかという点では、案内や実施報告といった「情報発信」の方法を見直す必要があるのではないかと。

現) 最も確実に(多くの方に)見ていただく方法

➡ 全会員発送の書面（事実、研修の申込は書面受取直後に集中していた）

今後、有効と考える方法

➡ X、インスタ